

南ア変異国内初確認

厚生労働省は28日、南アフリカに滞在歴のある30代の女性1人と、英国滞在歴のある男女6人が、新型コロナウイルスの変異ウイルスに感染していたと発表した。南アで確認されている変異ウイルスの感染が判明するのは国内で初めて。

(4、5面に関連記事)

厚生省によると、7人も空港検疫で陽性となり、国立感染症研究所で詳しく調べたところ、変異ウイルス

と判明した。濃厚接触者はいないという。国内で変異ウイルスの感染が確認されたのは計15人。

変異ウイルスは英国で感染が急拡大し、南アでも由来は異なるものの似た特徴を持つものが確認され、国は検疫体制を強化している。

厚生省によると、南アに滞在した30代女性は、南アからカタールの首都ドーハを経由し、19日に成田空港

に到着。症状はなかった。

【熊谷豪、矢澤秀範】

スポーツ入国

特例一部停止

来年に延期された東京オリンピック・パラリンピックに向けた国際大会や強化合宿に参加する外国の選手、スタッフの入国を認めるスポーツの特例措置に関して、政府が新型コロナウイルスの変異ウイルスが確認された一部の国・地域の適

用を停止する方針を日本オリンピック委員会(JOC)などに伝えたことが29日、分かった。期間は来年1月末まで。

変異ウイルスが確認された国・地域の水際対策を厳しくする政府方針に伴う対応。さらに対象国・地域から帰国する日本選手の自主待機措置の緩和がなくなる。東京大会の開催に向け、感染防止を徹底することになった。

今回適用が停止となる対象は英国や南アフリカ、フランス、イタリア、ベルギーなど。対象国から帰国する日本選手は入国できるものの14日間の待機措置を求められ、これまで認められていた大会出場や練習などの活動ができない。在留資格を持つ海外出身の指導者も同様の扱いとなる。